



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	日米関係（沖縄返還）10(スナイダ 内信 田中大使（一〇・十六） 外務省外交史料館レファレンス番号：H223553)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(4)No.8 公開日：平成23年2月18日 外務省外交史料館管理番号：2011-0023 CD・DVD番号：H22-021
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43785
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

不才如内任一田中大任(一〇一六)

米
長
米
長

相
談

スタイナー会及内情について

44.10.16 田中

16日スタイナーよりラニチの招待を受け
 島法士のたのみの際先方から送ったと云
 次の通り。
 沖縄返還交渉について昔田声明は核の非有
 を残すだけと云ったが、日米間には経済
 問題特に繊維の問題あり、沖縄について
 野田内閣は昔田声明の字句は福田
 大蔵大臣の草紙の石の2千文した程度で
 よいであらうが、戻便問題については
 運の必要あり(米側は理取れと云ったが)、
 大統領としては日米関係の重要問題
 處理について全体の姿の整理した形
 について云々を核対し、沖縄返還特許は核
 の問題につき最終決定を行わぬと考えて
 いる。
 日防省は核外交を以て互利であるが、軍には
 軍事的立場からかかる態度を以て当然
 である。日防省は政治的観点よりこの問題
 を考えており、自分の経験でもワトハウス

十月十七日の中米大領事館長会談の要約

GA-C

外務省

は日米関係の対等な般的考慮よりこの問題
 核対し、又大統領自身日米対等知り、
 核についての特殊事情についての過激さ
 もつた。然し大統領としては上道であり、
 日米間の諸問題の10に1は又至作として
 この際、核(特に)同懸念のありにつき一帯の
 前途について上つ核の處理について決定
 を行なうこととなる。
 (鶴岡防省より米側への態度を保留するかの
 点につき) 最も重要な問題は、両政府首魁
 に決定してもらうことには在り。但し
 日防省としては日米関係の他の諸問題に
 ついての見過しめを以て大統領への進言
 をし、核の懸念を以ては在りし。この二
 次官は大統領の信任が厚い。従って
 この問題は他の諸問題についての見過し
 めのつくこととタイミングにおいて関連性
 をもつ。(スタイナーは経済問題について至便
 に対して日米対等(向き)人12打珍して
 いたが、これは関連し、核の問題について
 同人のメリットを以て至便な格とあり

GA-C

外務省

ニカエ 之ニ12 気を引きくという態度の見ら
れぬ。尚 15日 衆議院の席上^{お前中の}口答^の答^のフイン
は 核の問題は目下 じょんソック官の推つた
方針^のありとせう 事務当局と12 日 政府の
リコト^のフイコトをなしたかの如く^の述べたか
(万が一^の方針^の活し合^のう=とと(な。)
(^{その}後知外相^の答^のは 新聞^の核の問題
は 緊急^の持込^のラインに^のて 處限^の土^の水^のとの
記事^の掲載^のした^のこと^の12 (失)して) =カハ
政府^の筋^のより^の流^のした^のり^のではなく^のス^のキ^のエ^のシ^のコ
と^の思^のう。 曾^のて^の口^の答^ので^の各^の種^のの^の策^のを^の核^のは
した^のカ^のハ^の一^のつ^のて^のあり。 又^のニ^のカ^のハ^の井^の田
声明^ので^の處^の限^のす^のた^の、 別^の途^のの^の合^の意^のを^の必^の要^のと^の知^のせ^のり
は^の井^の田^の声明^のの^の表^の現^の如^のく^の以^の席^のつ^のて^の甘^のり^のる。
(尚^のス^のタイ^のは^の策^の射^の持^のり^の問題^のは^のNATO^のと^の日^の本^の
とは^の口^の答^のの^の違^のう^のので^の考^のえ^のて^のい^のる^のと^の述べ^のて^のい^のた^のか
以上^の述べ^のた^のと^のろ^のは^の日^の人^のの^の在^の野^の村^のは^の代^のの
運^の轉^の上^のの^の考^のえ^の方^ので^のあり、 最^の此^の 核^のの^の問題^の
は^のつ^のに^の (万^の一^のの^の訓^の令^のに^の接^のして^のい^のる^のこと^のを^の使^の
の^の使^の同^のは^のの^のに^の対^のし、 (万^の一^のの^のて^の来^のて^のい^のる^の
と^の答^のえ^の 最^の此^の 野^の野^の村^の知^の内^のの^の事^の情^のは^の承^の知^のして